

令和元年度
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価報告書
(平成30年度事業分)

令和元年9月
二本松市教育委員会

目 次

I	点検及び評価の概要	1
1	はじめに	1
2	評価の進め方	1
3	学識経験者の知見の活用	2
4	議会への報告等	2
5	参考資料	2
II	点検及び評価の結果	6
1	児童生徒がともに学び高め合う取組みの推進	7
	・学び合う環境づくり推進事業	7
	・学力向上対策事業	8
2	児童生徒の健やかな体の育成	9
	・元気な児童生徒育成支援事業	9
	・学校給食と食育の推進	10
	・安全・按針な給食の提供	11
3	特色ある教育の推進	12
	・外国語活動講師派遣事業	12
	・学校図書館支援事業	13
4	教育相談活動の充実	14
	・教育支援センター事業	14
5	学校、家庭及び地域の連携による教育	15
	・放課後子ども教室推進事業	15
6	学校施設の整備充実	16
	・学校施設整備の改修	16
	・学校の耐震化	17
7	教育環境の整備充実	18
	・児童生徒の介助員の配置	18
	・学校コンピュータ整備事業	19
8	通学環境の整備	20
	・スクールバス運行事業	20
	・遠距離通学費助成事業	21
	・高等学校通学費助成事業	22
9	生涯学習活動の支援・事業開催	23
	・生涯学習プログラムの充実	23
10	図書館利用環境の整備	24
	・子ども読書計画の推進	24
11	スポーツ活動の推進	25
	・総合型地域スポーツクラブの活動支援	25
12	文化財保護・継承	26
	・埋蔵文化財発掘調査	26
	・文化財保護団体等の育成、支援事業	27
13	伝統文化事業の充実	28
	・地域文化顕彰事業	28
III	学識経験者の意見	29

I 点検・評価の概要

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検報告を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされております。

そこで、市教育委員会は、平成30年度教育行政重点施策の主要事業への取り組み状況について点検評価を行い、学識経験者の意見を付して、報告書にまとめることにしました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 評価の進め方

① 点検及び評価する事務事業

二本松市教育振興基本計画に掲げられた重点的事業のうち、22事業としました。（5ページ計画体系図参照）

② 点検及び評価の視点

P D C A（計画 P l a n → 実行 D o → 評価 C h e c k → 改善 A c t i o n）のサイクルを活用し、事業の目標や見込まれる成果に基づき平成30年度に実施した事業について、その内容やめざす指標の達成状況などを踏まえた評価を行い、次年度以降の方向性を定めています。

③ 教育委員会による自己評価

○ 評価シートの作成

事業ごとに、【目標に対する進捗状況】及び【費用対効果】に対する評価を行い、事業の成果と課題を明らかにしたうえで、それぞれ4段階の評価（A：順調 B：概ね順調 C：改善の必要あり D：休止、廃止 -：評価結果なし）を行い、それを踏まえた【事業の方向性】を定めています。

3 学識経験者の知見の活用

外部の学識経験者で構成する二本松市教育事務点検評価検証委員会を設置し、教育委員会の自己評価及びその評価方法に対する評価や、今後の教育行政に向けての意見を伺います。

【二本松市教育事務点検評価検証委員会委員】

氏 名	経 歴 等
安 田 幹 雄	元 二本松北小学校長
佐 藤 彰 男	現 二本松市体育協会会長
日下部 善 己	現 二本松市文化財保護審議会委員
佐 藤 和 彦	現 福島大学学校臨床支援センター特任教授

4 議会への報告等

点検及び評価の結果を報告書にまとめ、市議会へ報告するとともに、市民に対し公表を行います。

- ① 議会への報告
毎年9月
- ② 市民への公表
市のウェブサイトに掲載いたします。

5 参考資料

二本松市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により行う教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 点検及び評価の対象は、二本松市長期総合計画等に掲げられた施策を推進する事務事業（以下「事務事業」という。）のうちから教育委員会が選択するものとする。

(点検及び評価の時期)

第3条 点検及び評価は、年度終了後速やかに行うものとする。

(点検及び評価の主体)

第4条 点検及び評価は、教育委員会が、当該事務事業を企画立案し遂行する立場から行うものとする。

(点検及び評価の視点)

第5条 点検及び評価は、必要性、効率性、有効性その他の事項を視点として行うものとする。

(検証委員会の設置)

第6条 点検及び評価を行うにあたり、客観性を確保するため、二本松市教育事務点検評価検証委員会（以下「検証委員会」という。）を設置する。

2 検証委員会は、点検及び評価について意見を述べることができる。

(検証委員会の組織)

第7条 検証委員会は、委員4人以内で組織する。

2 検証委員会の委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

3 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第8条 検証委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会議の議長として議事を整理し、検証委員会の事務を総理する。

3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(市議会への報告等)

第9条 点検及び評価の結果は、毎年9月に市議会に報告するものとする。

2 前項の報告の後に、点検及び評価の結果を市民に対し公表するものとする。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成21年1月26日から施行する。

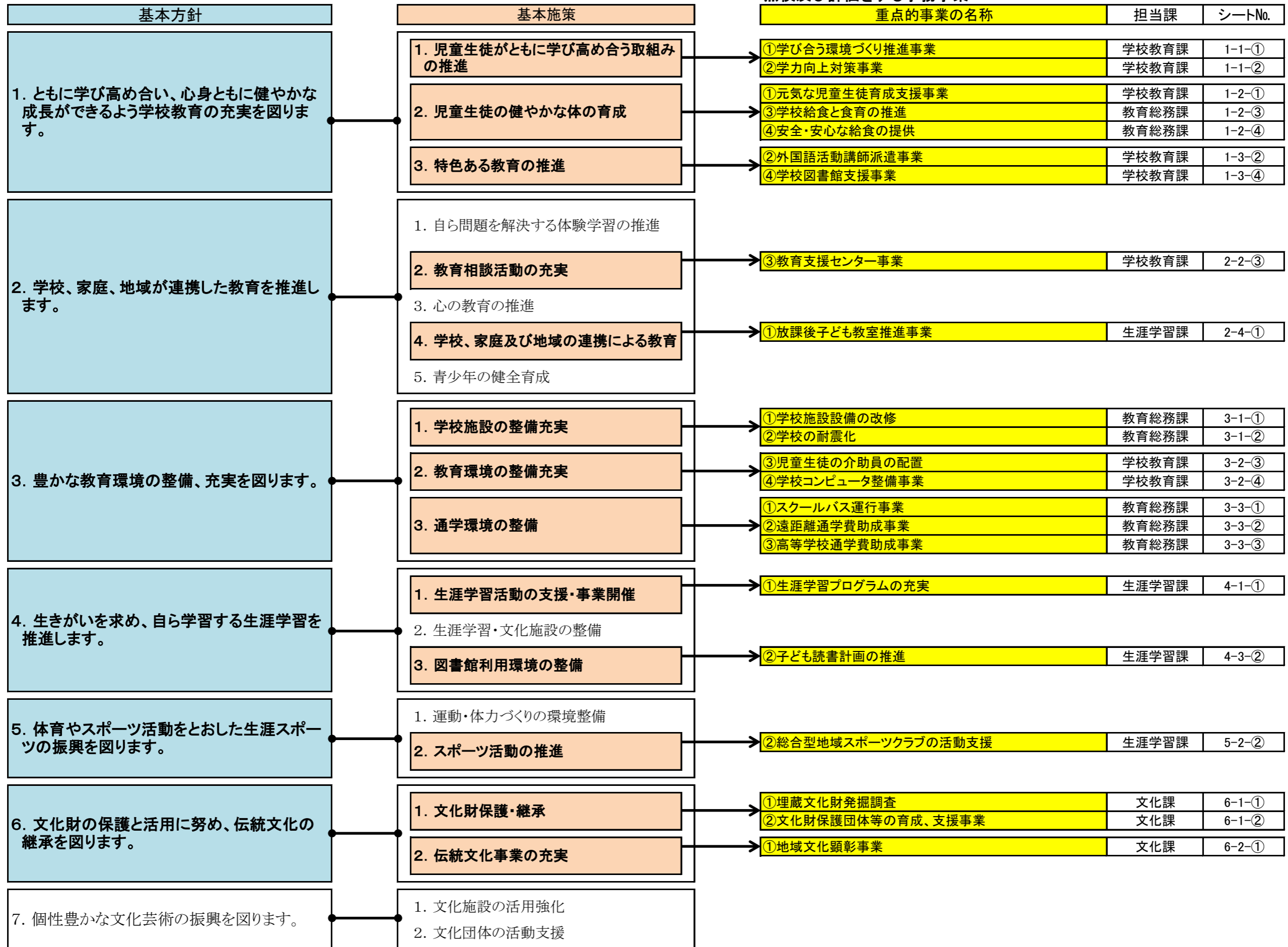
(経過措置)

- 2 第9条第1項の規定にかかわらず、平成20年度における市議会への報告は、平成21年3月とする。

附 則 (平成27年3月31日教委告示第1号)

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

◆ 二本松市教育振興基本計画の体系 ◆



Ⅱ 点検及び評価の結果

○二本松市教育振興基本計画に掲げられた13の基本施策の22重点的
事業について、

評価シート4段階の評価

A：順調

B：概ね順調

C：改善の必要あり

D：休止、廃止

を行い、事業の成果と課題を明らかにし、次年度以降の方向性を定め
ました。

○点検及び評価を行った13の基本施策は以下のとおりです。

- 1 児童生徒がともに学び高め合う取組みの推進
- 2 児童生徒の健やかな体の育成
- 3 特色ある教育の推進
- 4 教育相談活動の充実
- 5 学校、家庭及び地域の連携による教育
- 6 学校施設の整備充実
- 7 教育環境の整備充実
- 8 通学環境の整備
- 9 生涯学習活動の支援・事業開催
- 10 図書館利用環境の整備
- 11 スポーツ活動の推進
- 12 文化財保護・継承
- 13 伝統文化事業の充実

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-1-①

事務事業名	学び合う環境づくり推進事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. とともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	1. 児童生徒がともに学び高め合う取組みの推進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	児童の確かな学力向上のために、先進的な取組を行っている講師を招へいし、各学校の研究を推進するとともに教師の指導力向上を図る。 学習教材の配付を行い、学習内容の確かな定着と学習習慣の育成を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	児童生徒の確かな学力の向上のために、先進的な取組を行っている講師を招聘し研修会等を開催する。 (H30事業費:小4,810千円、中1,117千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	学校に行くのが好きな／学級が明るく楽しい感じがする児童生徒の割合	指標の単位	%		
指標の説明	全国学力学習状況調査／Q-U等の結果を基に算出したもの				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値			小学校6年93.0% 中学校3年86.0%	小学校6年94.0% 中学校3年88.0%	小学校6年95.0% 中学校3年90.0%
実績値	小学校6年86.8% 中学校3年83.1%	小学校6年92.3% 中学校3年84.8%	小学校6年97.1% 中学校3年90.0%		
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
各学校で講師招へいによる授業研究会が行われ、児童生徒が自分の学びを深め、確かな学力の定着を図りながら、学ぶことへの楽しさを味わう授業への転換を模索する学校が多く見られた。今後より一層、各学校が自校の課題を明らかにし、それを解決するための講師を計画的に招へいし、効果的な校内研修をマネジメントしていくことが課題である。					自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	
校長等に対し、自校の学力向上等の学校課題を明らかにし、それを解決するための校内研修を計画するよう指導する。 学習教材については、学校現場のニーズに応じていないものであったので、H31年度予算から削除した。	

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-1-②

事務事業名	学力向上対策事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. とともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	1. 児童生徒がともに学び高め合う取組みの推進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	小学校においては算数科を中心に、中学校においては英語科を中心に一人一人の基礎的な学習内容の定着を図る。また、諸検査等を実施し、個々の児童生徒への指導とよりよい学習環境の構築や学力向上の方法検討に活用する。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	小学校では、全16校に学力向上対策非常勤講師を、中学校では、1校に英語科学力向上対策非常勤講師を配置し、児童・生徒一人一人の能力の伸長を図る。また、学力検査、知能検査を実施し、個々の児童・生徒への指導とよりよい学習環境の構築や学力向上の方法検討に活用する。 (H30事業費:小33,169千円、中4,616千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	学校に行くのが好きな／学級が明るく楽しい感じがする児童生徒の割合	指標の単位	%		
指標の説明	全国学力学習状況調査／Q-U等の結果を基に算出したもの				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値			小学校6年93.0% 中学校3年86.0%	小学校6年94.0% 中学校3年88.0%	小学校6年95.0% 中学校3年90.0%
実績値	小学校6年86.8% 中学校3年83.1%	小学校6年92.3% 中学校3年84.8%	小学校6年97.1% 中学校3年90.0%		
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	小学校では、学校の実態に応じて算数科の授業以外での活用を可能とし、習熟度別学習等、多様な学習形態に対応することができた。また、児童の教科への興味、関心を高めることができた。各学校において、T2としての指導とそれ以外の効果的な活用方法について、さらに検討する必要がある。				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	各学校の実態に応じて、個に応じた細やかな指導や習熟度別学習など多様な学習形態に対応するため、より一層弾力的な指導ができるようにする。また、小中学校の学校規模や児童生徒の実態に応じて、配置校を検討し再配置する。H31年度は、小学校で8名、中学校で4名配置予定である。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-2-①

事務事業名	元気な児童生徒育成支援事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. とともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	2. 児童生徒の健やかな体の育成

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	児童生徒の体力の向上を図る。
-----------------	----------------

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	市内のスキー場においてスキー教室を行い、体力の向上を図る。 (H30事業費:小10,550千円、中3,969千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	肥満度の割合			指標の単位	%
指標の説明	学校保健統計調査				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値	全学年で全国平均以下			全学年で全国平均以下	全学年で全国平均以下
実績値	小学3年～6年女子と中学2・3年の男女で全国平均以下	小学3・6年女子と中学3年の男で全国平均以下	全ての学年で全国平均値以上		
達成度(%)		62.5	0		
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	スキー教室は、子どもたちが楽しみにしている授業ではあるが、年に1度のスキー教室では、継続した体力の向上を図るには、難しさがある。				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	地域にあるスキー場でスキー教室を行うことが、地域を見直し、地域を愛する心情を育てることになるが、年に1度の体験にかかる費用は大きい割に健康面から見た効果が大きいとはいえない。そのため、今後本事業の存廃を検討したほうがよいと考えている。移動や準備に時間がかかることも学校の負担になることもある。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-2-③

事務事業名	学校給食と食育の推進				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H20

1. 事業概要

基本方針	1. とともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	2. 児童生徒の健やかな体の育成

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	学校給食について、単なる栄養素の摂取としてだけではなく、家庭における食生活や生涯を通じた望ましい食生活への意識の醸成を目指し、食育をとおして、食材・調理・献立のバランス等、食が成長に及ぼす影響を知らせる場を設ける。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<ul style="list-style-type: none"> ・食育パンフレットの発行 50千円 ・栄養士による食育授業等 安達給セ 42回 東部給セ61回 計103回 ・栄養士による給食訪問等 安達給セ157回 東部給セ18回 計175回
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	朝食摂取率			指標の単位	%
指標の説明	任意の調査日において、朝食を摂取した子どもの割合				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		98.1	98.4	98.7	99
実績値	97.8	98.3	98.0		
達成度(%)		100.2	99.6		
指標名②	誰かと食事(2回)			指標の単位	%
指標の説明	任意の調査日において、一日のうち、朝食と夕食の2回(昼食は含めない)を家族などの誰かと一緒に食べた子どもの割合				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		77.4	78.3	79.2	80
実績値	76.5	78.6	79.4		
達成度(%)		101.6	101.4		
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	食育について、パンフレットの作成や栄養士による食育授業の実施などにより、児童生徒のみならず保護者への啓蒙にも積極的に取り組んだが、朝食摂取率については、実績値が前年度を下回り、目標値に届かなかった。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	今後も、パンフレットの作成や食育授業の実施などを継続し、積極的に食育に取り組む。また、各種取り組みについて、一過性のもので終わらせるのではなく、しっかりと根付かせるようなものになるような工夫も必要である。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-2-④

事務事業名	安全・安心な給食の提供				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H23

1. 事業概要

基本方針	1. とともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	2. 児童生徒の健やかな体の育成

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	給食の放射性物質測定を行うことにより、子どもたちを内部被ばくから守るとともに、安全・安心な給食を提供する。 地元農産物についても検査を行い、安全が確認できた食材については積極的に使用し、地産地消の拡大を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	各調理場等において、給食食材、まるごと給食及び給食用米の検査を行った。 また、検査機器の点検を実施し、効果的な検査体制の整備を図った。
	臨時職員賃金等 1,810千円
	給食用消耗品(検査用消耗品) 1,362千円
	給食用消耗品(測定用試料) 4,724千円
	検査用機器点検料 1,782千円
	放射性物質測定業務委託料等 14,590千円
	合計 24,268千円(全額震災復興特別交付税対象)

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	地場産物の活用			指標の単位	%
指標の説明	給食食材のうち、地場産物(福島県内産)を使用した割合(品目数)				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		24	26	28	30
実績値	21.9	26.7	27.4		
達成度(%)		111.3	102.6		
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	予算については十分に確保し、必要な検査を行うことができている。財源については全額震災復興特別交付税の対象となっているが、今後も事業を進めていくためには引き続き国による財源の確保が必須である。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	今後も安全・安心な給食を提供するため、放射性物質による内部被ばくの不安が払拭されるまで検査を継続するとともに、安全が確認された地元農産物については積極的に使用する。 また、財源については、検査が終了するまで国による財源確保が継続されるよう働きかけを行っていく。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-3-②

事務事業名	外国語活動講師派遣事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H21

1. 事業概要

基本方針	1. とともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	3. 特色ある教育の推進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	小学校3～6年の「外国語活動」について外国人講師を派遣し、活動の充実を図る。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	小学校3, 4年の外国語活動15時間、5, 6年の外国語活動50時間すべてに外国人講師を派遣し、チームティーチングで授業を行っている。 (H30事業費: 小7,596千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値	/			/	/
実績値				/	/
達成度(%)	/			/	/
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値	/			/	/
実績値				/	/
達成度(%)	/			/	/
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	外国語に接するだけでなく、外国に興味をもったり、外国語でコミュニケーションを取ることを楽しみにしている児童が多く、他の国や文化に触れる機会があることは意義深かった。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	令和2年度より、新学習指導要領が完全実施となり、外国語活動が3, 4年35時間、5, 6年が教科となり、70時間に増加する。今後は、授業の内容等について質的に高まる支援を図っていきたい。また、現在の派遣回数は、継続する方向で進めたい。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-3-④

事務事業名	学校図書館支援事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. とともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	3. 特色ある教育の推進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	市内小中学校に司書又は司書補の資格を有するもの、学校図書館でのボランティアを1年以上務めた者を学校図書館嘱託員として配置し、児童・生徒の読書活動を推進する。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	各中学校区に1名の「学校図書館嘱託員」を配置することにより、学校図書館の一層の充実を図り、恵まれた環境を利用して児童生徒の図書活動を推進し、一人一人の健やかな成長を期する。 (H30事業費:小4,435千円、中5,014千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	読書が好きな児童生徒の割合			指標の単位	%
指標の説明	全国学力学習状況調査等の結果を基に算出したもの				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値			小学校6年80.0% 中学校3年80.0%	小学校6年83.0% 中学校3年83.0%	小学校6年85.0% 中学校3年85.0%
実績値	小学校6年77.5% 中学校3年73.7%	小学校6年76.1% 中学校3年70.5%	小学校6年73.1% 中学校3年60.8%		
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	「学校図書館嘱託員」は、各小中学校と市立図書館等と連携し、図書活動の推進や授業中の図書利用の場合の児童支援を行い、児童生徒の読書への興味・関心を高めているが、配当人数が少ないこともあり、読書好きで頻りに図書室に通う子どもの育成にまでは至っていない。				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	平成30年度は、7中学校区の内6つの中学校区に学校図書館嘱託員を配当することができたが、複数校を兼務しているため1校当たりの勤務日数は決して多くはない。今後は、すべての中学校区に配置するとともに、読書好きな子どもの育成を図るため、市立図書館との連携を密にすることや学校図書館嘱託員の研修を充実させ、子どもたちの読書に対する興味・関心を高めていきたい。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

2-2-③

事務事業名	教育支援センター事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H29

1. 事業概要

基本方針	2. 学校、家庭、地域が連携した教育を推進します。
基本施策	2. 教育相談活動の充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	学校、家庭との連携を図り、不登校児童・生徒一人ひとりに応じた適応指導を展開することで自己肯定感を高め、学校復帰並びに進路目標の実現を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	個に応じた学習指導によって基礎学力の向上を図ることができた。また、小集団で行う体験的適応指導により友達と活動する喜びを感じさせるとともに活動への意欲を高めることができた。その結果、通所する中学3年生4名全員が、高校進学という実績を上げることができた。 (H30事業費:5,346千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	不登校の発生率			指標の単位	%
指標の説明	問題行動、不登校等調査				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値			小・中学校とも0%	小・中学校とも0%	小・中学校とも0%
実績値	小学校0.15% 中学校2.79%	小学校0.43% 中学校3.03%	小学校0.64% 中学校4.61%		
達成度(%)					
指標名②	いじめ解消率			指標の単位	%
指標の説明	問題行動、不登校等調査				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値				100%	100%
実績値	100%	小学校80% 中学校91%	小学校95.4% 中学校91.7%		
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	開所以来、10名程度の通所者があり、各学校と連携を持ちながら児童生徒の指導にあたっている。市全体の不登校発生率の抑制、いじめの完全解消に向けて、相談業務等の実績も積み重ねていきたいと考える。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	本所には、不登校をはじめ発達障がい、特別支援教育に関する保護者や教員のニーズに応える機能が必要である。特に相談機能については充実を図るため、資格を有したSCやSSW、特別支援教育に精通した職員の常時配置を計画する必要がある、H31年度より指導主事1名を配置した。また、SCの出勤日を15日(H30年度)から35日(H31年度)にするなど特別支援教育等の相談業務の充実に努めている。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

2-4-①

事務事業名	放課後子ども教室推進事業				
担当課	生涯学習課	担当係	生涯学習係	事業開始年度	H18

1. 事業概要

基本方針	2. 学校、家庭、地域が連携した教育を推進します。
基本施策	4. 学校、家庭及び地域の連携による教育

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	学校や地域、家庭が連携し、放課後に子どもたちが安全な環境の中で学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を体験できる場の充実を図ることで、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育む機会とする。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	地域住民やボランティアとともに、宿題や読み聞かせ、工作、スポーツ等の活動を実施した。		
	【実施回数・参加人数】		
	・あだち子ども教室	32回	1,120人
	・いわしろ子ども教室	27回	594人
	・とうわどんぐり教室	28回	1,120人
	・おおだいら子ども教室	28回	784人
	【事業費】		
	・謝金	1,143千円	
	・行事用消耗品費	258千円	
	・郵券代	22千円	
	・保険料	75千円	

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	放課後子ども教室数			指標の単位	教室
指標の説明	開設している放課後子ども教室の数				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		4	4	5	6
実績値	3	4	4		
達成度(%)		100%	100%		
指標名②				指標の単位	
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	目標達成				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	放課後の時間を活用し、子どもたちが地域住民と交流しながら有意義な時間を過ごすことができた。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	現在運営している4教室に加え、令和元年度に1教室、令和2年度にさらに1教室を開設し、放課後子ども教室の推進を図っていく。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-1-①

事務事業名	学校施設設備の改修				
担当課	教育総務課	担当係	文教施設係	事業開始年度	H25

1. 事業概要

基本方針	3. 豊かな教育環境の整備、充実を図ります。
基本施策	1. 学校施設の整備充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	トイレ環境を改善(和式便器を洋式便器)することにより、快適な学校生活を送るための改善を図る。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<p>小中学校の便所洋式化工事の実施設計等を行った。</p> <p><小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋川小学校便所洋式化整備工事……………17,954千円 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安達中学校便所洋式化整備工事……………21,678千円 ・二本松第二中学校便所洋式化実施設計業務委託……………1,480千円
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	トイレ(和式便器)の洋式化			指標の単位	%
指標の説明	和式便器から洋式便器への改修を行う工事				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		35.4	38.4	41.0	43.3
実績値	27.5	32.1	36.7		
達成度(%)		90.7	95.6		
指標名②				指標の単位	
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	<p>工事における国庫補助事業の採択見送り及び発注時期の遅れが発生したしたことにより、繰越工事となった。</p> <p>※採択見送り: 塩沢小学校, 二本松第一中学校</p> <p>繰越工事: 渋川小学校, 安達中学校</p>				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	<p>快適な学校生活を送るため、便所洋式化工事を年次計画により進めていくこととする。</p> <p>国庫補助事業の採択の見送り等により事務執行の再検討を行うこととする。</p>

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-1-②

事務事業名	学校の耐震化				
担当課	教育総務課	担当係	文教施設係	事業開始年度	H28

1. 事業概要

基本方針	3. 豊かな教育環境の整備、充実を図ります。
基本施策	1. 学校施設の整備充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	地震等の災害が発生した際の避難所としての必要な機能が発揮できるよう、防災機能の強化を図る。また、児童生徒等を事故等から防ぐために必要となる工事を行うことにより、学校施設の改善を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<p>小中学校の屋内運動場耐震化工事に伴う実施設計等を行った。</p> <p><小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石井小 屋内運動場非構造部材耐震化実施設計業務委託……………2,247千円 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東和中 屋内運動場非構造部材耐震化工事……………42,525千円 ・東和中 屋内運動場非構造部材耐震化工事監理業務委託……………1,754千円 ・安達中 屋内運動場非構造部材耐震化実施設計業務委託……………1,578千円 ・小浜中 屋内運動場非構造部材耐震化実施設計業務委託……………2,329千円
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	屋内運動場非構造部材の耐震化			指標の単位	%
指標の説明	吊り天井等の落下防止工事				
	H28	H29	H30	H31	H32
目標値		3.5	7.1	17.8	20.0
実績値	0.0	3.5	7.1		
達成度(%)		100.0	100.0		
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	H31	H32
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	工事における国庫補助事業の採択及び発注が遅れはあったが、学校管理者との打合せ等により年度内完了となった。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	防災機能強化事業において、屋内運動場の非構造部材(吊り天井等)の落下防止対策として耐震化工事を年次計画により進めていくこととする。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-2-③

事務事業名	児童生徒の介助員の配置				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H19

1. 事業概要

基本方針	3. 豊かな教育環境の整備、充実を図ります。
基本施策	2. 教育環境の整備充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	障がいのある児童生徒及び特別な支援が必要な児童生徒の学習環境を補償する支援を行うために、学校のニーズに合わせて介助員を配置し、自立と社会参加の促進を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	介助を必要とする児童生徒の支援のために、小学校に33名・中学校に8名の介助員を配置し、児童生徒の学びや自立について支援を行った。 (H30事業費:小37,311千円、中7,795千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	特別な支援が必要な児童生徒に対し、細やかな支援がなされ、授業に集中して取り組む児童生徒が増えた。学校のニーズも年々増加しているが、児童生徒への関わりがうまくできない方もいたので、介助員研修会を通して、支援の仕方について研修を図ってきた。				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	特別な支援が必要な児童生徒が年々増えている。介助員が必要な支援をすることによって適切な学級経営がなされ、学力向上も図られている。今後は、配置の基本的な方向性や介助員の支援の仕方や資質を向上させる研修のあり方について見直したい。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-2-④

事務事業名	学校コンピュータ整備事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	3. 豊かな教育環境の整備、充実を図ります。
基本施策	2. 教育環境の整備充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	各校1クラス分程度の教育用コンピュータを整備し、児童・生徒が使用する機会を増やし、児童・生徒の情報活用能力の育成を図る。 教職員1人1台の教職員用コンピュータを整備し、教職員間の事務内容の共有化を推進し、事務処理の効率化を行う。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	【教育用】油井小(33台)、渋川小(25台)、川崎小(19台)、に計77台の児童・生徒用タブレットパソコンを更新整備した。 【教職員用】安達太良小、原瀬小、杉田小、石井小、川崎小に計66台の教職員用パソコンを更新整備した。 ※上記以外は長期継続契約に係るリース料の支払いを行った。 (H30事業費:小63,268千円、中38,029千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	小学校児童・中学校生徒のパソコン整備			指標の単位	校
指標の説明	各校1クラス分程度の教育用コンピュータの整備				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		23	23	23	23
実績値	17	20	23		
達成度(%)		86.9	100		
指標名②	教職員のパソコン整備			指標の単位	校
指標の説明	教職員1人1台の教職員用コンピュータの整備				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		23	23	23	23
実績値	23	23	23		
達成度(%)		100	100		
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	【教育用】H30年度の更新整備により全校でパソコン教室等に1クラス分程度の整備が完了し、児童生徒の一人一人のコンピュータ操作能力や情報活用能力が高まった。 【教職員用】各学校における効率的な事務の推進等が維持された。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	文部科学省が示している整備目標に基づき、各教室で使用するためのタブレットパソコンや教育効果を高める電子黒板の整備を推進していく。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-3-①

事務事業名	スクールバス運行事業				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	3. 豊かな教育環境の整備、充実を図ります。
基本施策	3. 通学環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	遠距離及び通学のため交通手段が不便な地域においてスクールバス等を運行し、通学時の安全及び教育の機会均等を確保する。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	スクールバス、スクールタクシーの運行を行った。												
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">杉田小スクールバス</td> <td style="text-align: right;">6,750千円</td> </tr> <tr> <td>石井小スクールタクシー</td> <td style="text-align: right;">24千円</td> </tr> <tr> <td>渋川小スクールタクシー</td> <td style="text-align: right;">806千円</td> </tr> <tr> <td>新殿小スクールタクシー</td> <td style="text-align: right;">1,068千円</td> </tr> <tr> <td>大玉村スクールバス運行負担金</td> <td style="text-align: right;">91千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">8,739千円</td> </tr> </table>	杉田小スクールバス	6,750千円	石井小スクールタクシー	24千円	渋川小スクールタクシー	806千円	新殿小スクールタクシー	1,068千円	大玉村スクールバス運行負担金	91千円	計	8,739千円
杉田小スクールバス	6,750千円												
石井小スクールタクシー	24千円												
渋川小スクールタクシー	806千円												
新殿小スクールタクシー	1,068千円												
大玉村スクールバス運行負担金	91千円												
計	8,739千円												

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値	/				
実績値				/	/
達成度(%)	/			/	/
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値	/				
実績値				/	/
達成度(%)	/			/	/
【目標に対する進捗状況】	目標達成				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	必要な地域にスクールバス等を運行し、児童生徒の通学の便の確保に成果を上げており、通学時の安全及び教育の機会均等が確保された。				自己評価 A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	
今後も、通学時の安全及び教育の機会均等を確保するため、地域の実情に応じたスクールバス等の運行を行う。	

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-3-②

事務事業名	遠距離通学費助成事業				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	3. 豊かな教育環境の整備、充実を図ります。
基本施策	3. 通学環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	通学距離が4km以上の児童又は6km以上の生徒に対し、定期券又は通学費を支給し、保護者の負担を軽減するとともに、通学時の安全及び教育の機会均等を確保する。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	バス定期券を現物支給又はバスが利用できない生徒には年額32,000円の通学費を支給した。 また、災害による区域外就学者についてもバス定期券を現物支給した。 小学校バス定期券助成 97名 5,224千円 中学校バス定期券助成 53名 7,166千円 中学校通学費助成 11名 352千円 計 161名 12,742千円				
----------------------------	---	--	--	--	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	目標達成				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	遠距離通学児童生徒の保護者に対し通学費の助成を行うことで、保護者の負担が軽減され、通学時の安全及び教育の機会均等が確保された。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	引き続き保護者の負担を軽減し、通学時の安全及び教育の機会均等を確保するため、継続して実施する。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-3-③

事務事業名	高等学校通学費助成事業				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	3. 豊かな教育環境の整備、充実を図ります。
基本施策	3. 通学環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	高等学校に遠距離通学する生徒をもつ保護者に通学費を支給し、経済的負担を軽減する。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	自宅から学校までの道のりが10km以上ある生徒又はJRを利用することが合理的と判断される場合であって自宅から最寄りの駅までの道のりが10km以上ある生徒の保護者に対し、年額25,000円の通学費を助成した。 ※平成29年度より、距離の算定を「直線距離」から「道のり」に改正するとともに、助成額を年額32,000円から年額25,000円に改正。ただし、平成28年度以前から助成対象となっていた場合は、経過措置として、卒業するまで改正前の32,000円を助成						
	二本松地域	8名	200千円	(経過措置分)	二本松地域	0名	0千円
	安達地域	1名	25千円		安達地域	0名	0千円
	岩代地域	45名	1,125千円		岩代地域	11名	352千円
	東和地域	65名	1,625千円		東和地域	14名	448千円
	計	119名	2,975千円		計	25名	800千円

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①					指標の単位	
指標の説明						
	H28	H29	H30	R01	R02	
目標値						
実績値						
達成度(%)						
指標名②					指標の単位	
指標の説明						
	H28	H29	H30	R01	R02	
目標値						
実績値						
達成度(%)						
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり					
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった					

【説明】 平成30年度の事業実施にあたっては、広報やウェブサイトによる周知だけではなく、平成30年1月に、中学3年生(4月に高校1年生になる生徒)に対し、学校を通して事前に制度について周知することで制度の浸透を図った結果、利用者は平成29年度と比較して39名の増となった。平成30年度も、中学3年生に対し、同様の周知を行った。	自己評価 B
---	----------------------

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】 助成制度については継続して実施し、保護者の経済的負担の軽減を図る。 また、広報や学校を通じた案内なども継続して行い、より一層の制度の浸透に努める。	

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

4-1-①

事務事業名	生涯学習プログラムの充実				
担当課	生涯学習課	担当係	生涯学習係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	4. 生きがいを求め、自ら学習する生涯学習を推進します。
基本施策	1. 生涯学習活動の支援・事業開催

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	それぞれのライフステージをとおして誰もがいつでも自主的に学べる機会を提供することができるよう多様なニーズに応じた学習プログラムを提供する。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	生涯学習のために各種学級、講座を開設し学習の機会の提供を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民大学セミナー (3回、266名) 95千円 ・ 市民講座 (52回、1,049名) 763千円 ・ 女性学級 (118回、2,878名) 604千円 ・ 高齢者学級 (131回、4,055名) 468千円
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	市民講座等の各種講座の年間受講者数			指標の単位	人
指標の説明	市民講座等の各種講座の年間受講者数				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		8,600	9,000	9,500	10,000
実績値		8,663	8,248		
達成度(%)		100.7%	91.6%		
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	市民大学セミナー及び市民講座では、多くの市民が学習意欲をもって参加できるよう関心を持つ内容の講座を開催した。また、各地域で開催する女性学級及び高齢者学級では多様なニーズにあった内容の学級を開催した。				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	引き続きそれぞれのライフステージをとおして誰もがいつでも自主的に学べる機会を提供することができるよう各講座において多様なニーズに応じた学習プログラムを提供する。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

4-3-②

事務事業名	子どもの読書計画の推進				
担当課	生涯学習課	担当係	生涯学習係	事業開始年度	H23

1. 事業概要

基本方針	4. 生きがいを求め、自ら学習する生涯学習を推進します。
基本施策	3. 図書館利用環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	平成28年度に策定した第2期子ども読書活動推進計画に基づき、図書館や学校、家庭での読書環境の整備と充実を図ることで、子どもたちに読書の楽しさや大切さを実感させ、読書習慣を身に付けてもらう。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<p>幼児から青少年に読書に対する興味を持たせるため、毎月のおはなし会や「としょかんまつり」、「えほんフェスティバル」等のイベントを開催した。</p> <p>また、幼児期の親子に対する読書振興と図書館・図書室の利用促進を図るため、3歳児健康診査時には、読書ボランティアによる絵本の読み聞かせを行う「ブックステップ事業」を実施した(20回実施、3歳4か月児対象)。</p> <p>【事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼(おはなし会等出演謝礼) 220千円 ・行事用消耗品費(材料代、としょかん通信用紙代、配布用絵本代) 503千円 ・郵券代(相互貸借資料送付用) 4千円
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	市立図書館貸出冊数			指標の単位	冊
指標の説明	人口一人当たりの貸出冊数				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値				4.00	5.33
実績値	3.05	3.36	3.78		
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	目標達成				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	ブックステップ事業においては3歳児の保護者に対し、読み聞かせや絵本引換の際に図書館・図書室の利用案内や子ども読書活動のPRを行った。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	引き続き図書館や図書室でのイベントを開催することで、多くの子どもたちに読書に親しむ機会を提供する。また、令和元年度のブックステップ事業では、3歳児に加え、4歳児にも絵本の配布を行い、幼児期の親子に対する読書振興と図書館・図書室の利用促進を図っていく。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

5-2-②

事務事業名	総合型地域スポーツクラブ支援事業				
担当課	生涯学習課	担当係	スポーツ推進係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	5. 体育やスポーツ活動をととした生涯スポーツの振興を図ります。
基本施策	2. スポーツ活動の推進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	市内の子どもから高齢者まで全市民を対象として、誰もが気楽により多くの市民に参加してもらおうクラブ運営を目標としており、市民の健康づくりと生涯スポーツの振興を実現する。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	市内5クラブ(にほんまつ城山クラブ、岳クラブ、あだちスポーツクラブ、いわしろふれあいスポーツクラブ、東和さわやかスポーツクラブ)への助成を行うとともに自主事業運営への支援を行った。 ・総合型地域スポーツクラブ補助金 8,315千円
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	クラブ加入者の増加と自主運営			指標の単位	人
指標の説明	クラブ加入者の増加と自主運営				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値			2,000	2,080	2,100
実績値	1,947	1,952	1,841		
達成度(%)			92.1%		
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	各総合型スポーツクラブが自主的に市民ニーズに応じた活動プログラムを実施し、幅広い年代層の多くの市民が参加できる健康づくりと生涯スポーツを推進した。いずれのクラブも20～40代の会員が非常に少なく、クラブ活性化のために、この年代を会員獲得するための工夫が必要。				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	総合型地域スポーツクラブについては、市内5クラブで創意工夫をしながら活動をすすめる市民に定着してきている。市民が身近にスポーツを楽しみ、生涯を通じて心身ともに健康に暮らせるようクラブを支援するとともに、自主運営に向けた事業運営を推進していくため、市体育施設管理のあり方も兼ね合わせ施策を支援する。法人化についても、H28.4.1からいわしろふれあいスポーツクラブが、H28.11月からにほんまつ城山クラブが一般社団法人となった。将来的には5クラブとも自主運営を基本に指導していく。 市スポーツ推進委員との事業連携や市事業との共催など、有機的連携を図りながら市全体のスポーツ実施率の向上を図る。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

6-1-①

事務事業名	埋蔵文化財発掘調査				
担当課	文化課	担当係	文化振興係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	6. 文化財の保護と活用に努め、伝統文化の継承を図ります。
基本施策	1. 文化財保護・継承

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	二本松城跡は歴史と文化を継承する貴重な遺産であるため、発掘調査を進め資料を得ることにより、史実に基づく保存、活用を目指す。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二本松城跡（第27次発掘調査）サイン設置 4,200千円 ・ 大手門跡発掘調査 4,000千円
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	発掘調査による資料収集			指標の単位	
指標の説明	判明できていない箇所を計画的に進める。				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	大手門地割図で描かれているとおり塀が築かれていることが想定できた。また、本宮館では建物が存在していた可能性があることが確認された。調査成果を一般に公開し市民の二本松城跡に対する理解と認識が高められた。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	二本松城跡全体及び大手門跡を対象として、年次計画により発掘調査を進める。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

6-1-②

事務事業名	文化財保護団体等の育成、支援事業				
担当課	文化課	担当係	文化振興係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	6. 文化財の保護と活用に努め、伝統文化の継承を図ります。
基本施策	1. 文化財保護・継承

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	地域伝統芸能の保護継承に取り組む国県市指定無形民俗文化財の保存団体及び文化財の保存事業に取り組む管理者に対し助成し、保存・継承を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	・ 無形民俗文化財保存団体活動助成	37団体	999千円
----------------------------	-------------------	------	-------

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	無形民俗文化財保存団体数			指標の単位	団体
指標の説明	現在の無形民俗文化財保存団体数を維持する				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		37	37	37	37
実績値		37	37		
達成度(%)		100	100		
指標名②				指標の単位	
指標の説明					
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	活動助成により団体数が維持でき、貴重な文化財の保存・継承が図られた。				自己評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	地域伝統芸能の保護継承のためには、後継者の育成及び活動を賄う資金的問題の解決は非常に重要であるため、継続的に支援する。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

6-2-①

事務事業名	地域文化顕彰事業				
担当課	文化課	担当係	文化振興係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	6. 文化財の保護と活用に努め、伝統文化の継承を図ります。
基本施策	2. 伝統文化事業の充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	地域に有する文化を後世に継承するための顕彰事業を行う。
-----------------	-----------------------------

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝河の道」パネル展 ・朝河貫一博士没後70年顕彰講演会 ・旧二本松藩戒石銘顕彰作文コンクール ・高村智恵子顕彰事業補助 	入場者246名 入場者200名 応募作品数447点	356千円 327千円 83千円 100千円
----------------------------	--	---------------------------------	---------------------------------

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	入場者数			指標の単位	人
指標の説明	朝河貫一博士顕彰講演会等				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		180	180	180	180
実績値		170	200		
達成度(%)					
指標名②	応募者数			指標の単位	点
指標の説明	旧二本松藩戒石銘顕彰作文コンクール				
	H28	H29	H30	R01	R02
目標値		520	530	540	540
実績値		501	447		
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	ほぼ目標に沿った入場者または応募があり、郷土の有する財産を広く周知し、後世へ伝えるための顕彰事業を開催することができた。				自己評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	事業内容について十分に検討しながら、費用対効果が得られるように工夫していく。

Ⅲ 学識経験者の意見

教育問題の複雑化、さらには、常に説明責任を求められる事業運営など教育行政の課題も多様化している中、本市教育委員会が「教育振興基本計画」に則り、教育大綱と基本方針を掲げ、本市の子ども及び市民のために、明確な見通し（P D C A）を持って教育事務事業を誠実、かつ適切に展開していることに敬意を表したい。

今回の検証結果が、次年度の事業運営に反映されるとともに、次期教育振興基本計画（令和3年度～）策定に向けた礎となることを期待して、以下、事業実施、事業評価、検証委員会の3点について総括的意見を述べる。

① 事業実施について

まずは事業実施が、基本方針や目標、評価、改善策と緊密に結びついて、マネジメントサイクルが機能していることを評価したい。特に学校教育では、「確かな学力・豊かな心・健やかな体」に関する政策が、効果的に配置され、基本方針で示されている目指す姿が具体化されていることから、さらなる恒常的な取り組みを望む。

また今後の事業実施にあたっては、学校や教員、子どもたちの声を取り入れた「開かれた事業運営」に期待したい。事業の改廃についても教育現場、保護者、地域の意見を十分に踏まえた慎重な取り組みが求められる。

文化・文化財関係事業は、市民一人ひとりに心の潤いと安らぎをもたらし、ふるさとへの愛着にもつながるものである。さらには、地域振興やコミュニティの再生等を支える重要な要素でもある。

しかし、保存・活用・継承にあたっては、求められる高度な知識や技術の専門性をはじめとして課題も多く、一方で効果がすぐに表れない場合も多いことから、息の長い取り組みが求められる。市民の宝として後世に伝えるために関係事業のさらなる継続・推進と、若い世代を中心とした市民への公開と活用をさらに進めていくことを望むものである。

他の主要事業についてもその多くは、実質的な推進母体が市民であり、地域であることから、推進に当たっては、それらの声を十分取り入れ、反映された事業推進に今後も心がけていただきたい。

さらには、これらのことを踏まえ、教育振興基本計画を、学校、地域、市民一人ひとりにどう啓発し、目的意識を持たせて実践していくかが課題であろう。取り組みの中での行政と現場が一体となった双方向性のある関係づくりは、アクティブで特色ある事業推進につながるものと考えている。

② 事業評価について

今回も検証委員会で話題になったことに「評価指標」がある。

そこでは、P D C Aの関連から、事業の内容に相応した、達成度が具体的に評価できるような指標と、さらには、設定された目標値が事業の実態に見合っていることが求められている。

もちろん、すぐに成果が得られるものと、学力向上や不登校問題等、成果が

現れるまで長時間かかるものがあり、教育現場における短いスパンでの成果要求や数値化を重視したエビデンスなどは、必ずしも教育行政に馴染まないものもある。それらのことを十分に踏まえ、説得力のある評価指標の設定を検討したい。

またその評価にあたっては、定量的評価と併せて、評価の背景や要因、取り組みの過程、現場の声等の多角的な視点を加えた定性的評価も積極的に取り入れることで、教育行政の取り組みに新たな説得力が生まれることを期待する。

③ 検証委員会について

この検証委員会は、点検及び評価の主体者である教育委員会が、その客観性を確保するために設置しているものであり、検証委員会は、必要性、効率性、有効性を視点としたその点検及び評価について意見を述べるができる。

そこでは、もちろん教育委員会が結果や成果を示すことで説明責任を果たすというねらいはあるものの、最終的には、事業の改善点を明らかにして、より効果的で質の高い事業を再企画して現場に寄与していくことが求められている。そのための点検及び評価であり、検証委員会の存在意義である。

そのことを踏まえながら、今回の検証委員会の実際について、各委員からの率直な意見を述べる。

各担当部署からの説明を聞くに、点検及び評価にあたっては、誠実に振り返りがなされており、時に自己評価が厳しすぎるのではと思われるほど、実に真摯な姿勢がうかがわれた。さらに、教育長の挨拶や答弁の言葉からは、厳しい現状認識、本委員会の重要性と進め方の真剣さが伝わってきて、各委員、背筋を伸ばした思いであった。

ともすると慣例的、形骸化する会議の中にあって、委員と担当者のやりとりが、建前を取り外し、本音と実際の部分で行われたことは評価したい。その根底には、事業ありきではなく、まずは「ひとありき」という思いが感じられ、子どもや教員、保護者、地域の人々に寄り添う姿勢が伝わってきたことは嬉しいことだった。

今後、この点検及び評価と検証委員会が果たす役割が、事業の活性化と教育委員会の組織力のアップへとつながるとともに、さらには令和3年度を目途とした次期教育振興基本計画策定に向けて機能していくことを期待するものである。

令和元年9月4日

二本松市教育事務点検評価検証委員会委員

佐藤和彦	安田幹雄	佐藤彰男	日下部善己
------	------	------	-------